



市の農地筆をJAと共有して、あわじ玉葱作付け等調査業務を支援します。

(1/2)

今回紹介する団体:南あわじ市&あわじ島農業協同組合

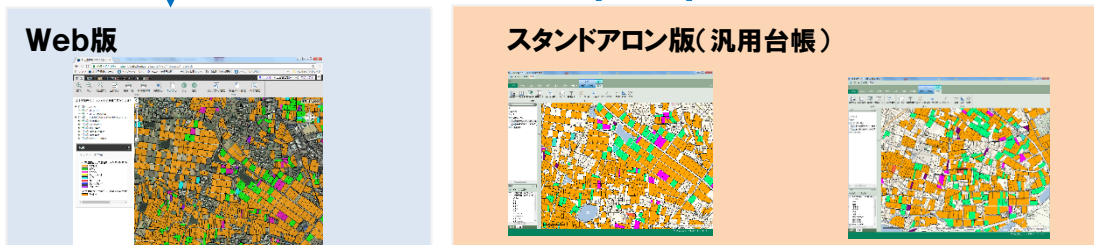
取組概要

内容:平成27年度から、南あわじ市の作成する地籍データを「Webクラウド版水土里情報システム」上にてデータ共有を図り、JAあわじ島に提供。
これを活用して、JA各支所単位で「スタンドアロン版水土里情報システム」を利用した玉葱作付け(面積・種類)調査を実施する事で、詳細MAP管理が可能となり、栽培管理から出荷調整まで幅広く利用。



短期間分散方式による集中調査結果を営農管理に利用

兵庫県水土里情報サービス
(兵庫県クラウド環境)



支所ごとにスタンドアロン版調査結果を一括入力して、本庁に集約。
統一MAP作成し、Webシステム上での共有化運用が可能。

- 経緯:①従来JAあわじ島では、玉葱・レタス等作付け面積調査は、各担当職員が農家ごとに、調査ノートで個別管理・集計をして、栽培管理から出荷調整までを職員の技能によって実施していた。
- ②JAあわじ島が水土里情報システム加入した当初は、農地情報(面積)が未整備であったことから、南あわじ市に協力依頼を行ない、地積データを用いた作付け面積調査を平成28年秋に仮実施し、平成29年2月から本格的に実施をしている。
- ③さらなる取組として、南あわじ市では、ドローンによる航空写真撮影を実施。費用軽減やデータの経年比較のため、対象地区内の自動航行によるコース設定技術を開発するなど、技術的な課題を克服しながら、水土里情報システムへの安定的な航空写真データの提供を進めている。
これにより、JAあわじ島では、水土里情報システム上にて、栽培管理が可能となった。
- ④今後の課題としては、全体を撮影する時期、回数、経費負担の調整を行いながら、撮影場所限定でその都度の撮影する対応を検討している。

期待される効果

作物別定期作付け調査を継続的に実施することで、営農管理可視化。
病害虫調査に流用すれば、広がり範囲及び時期による可視化。

今後の活用予定

作物別定期作付け調査を継続的に実施することで、営農管理可視化。
病害虫調査に流用すれば、広がり範囲及び時期による可視化。

GISシステムのバージョン情報

NEC GISAp WebV4 4. 3. 1

NEC GISAp SmartForm & GISAp Desktop 4. 3. 0. 1

■お問い合わせ先

兵庫県 南あわじ市 農林水産部 農地整備課 0799-43-5001 (代表)
あわじ島農業協同組合 営農部 生産促進課 0799-42-5211(代表)
兵庫県土地改良事業団体連合会 情報管理課 078-341-0592 (直通)
農林水産省農村振興局整備部設計課計画調整室(大坪、沖) 03-6744-2201(直通)